

田淵良枝氏（高知県高知市病院企業団立高知医療センター 不妊症看護認定看護師）

COVID-19に感染した家族員を抱える生殖家族の実践事例をとおして、妊産褥婦と家族の支援についてお話をいただいた。

松下由香氏（高知医療センター 家族支援専門看護師）

家族の捉え方や健康的な家族システムの要件など家族看護に関する基本的内容とともに関係性が脆弱な家族の特徴やその支援のあり方について話題提供いただいた。

### 【ディスカッション内容】

参加者から、コロナ禍における面会制限などが家族の関係性やケアのあり方に影響を及ぼしている現状について意見が出された。その中で、これまで以上に病院内外の専門職者と話し合いの場をもち家族へのケアについて検討するようになったり、自身のケアを見つめ直すようになったりしたなどの経験も語られた。家族のあり様が多様化している現在、家族を柔軟にとらえ、支援していくことの重要性についても議論された。

松下氏のご講演で、イノベーションは常に協力関係の中で起こる現象であり、コラボレーションによってもたらされるというお話があった。本ワークショップをとおして、コロナ禍であるがゆえに、より密な多職種との協働が行われ、ケアの見直しや新たなケアの創造がなされるようになり、それがケアのイノベーションにもつながっていることを共有することができた。同時に、社会情勢の変化によって対象がどのような影響を受けているのか、またそれに応じて看護はどのようなイノベーションを行っていく必要があるのかについて考える貴重な機会となった。

### ワークショップ3：

本人・家族・支援者が共に作り出すイノベーション—本人の思いを尊重した「その人らしさ」—

### 【コーディネーター】

吉田 亜紀子（高知学園短期大学看護学科

39期生 修士1期生）

有田 直子（高知県立大学看護学部 39期生  
修士2期生 博士10期生）

### 【企画の意図】

医療を取り巻く状況が変化するなかで、療養者本人の思いやその人らしさを尊重したケアのあり方も変化が求められている。今回はがん看護専門看護師の立場から日頃の取り組みについてご紹介いただき、様々な領域の専門職が参加した幅広いディスカッションに繋げたいと考えた。

### 【話題提供者の紹介及び話題提供の内容の概要】

弘末美佐氏（高知大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）

がんゲノム医療など治療の進歩によって、がん患者さんを取り巻く状況が変化するなかで、本人の思いやその人らしさを大切にしたケアの連携体制の構築をいかに作り出しイノベーションを生み出すか、これまでの取り組みを紹介していただいた。

島田いづみ氏（帝京大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）

AYA世代がん患者さんを取り巻く課題は多様であり、個々のニーズに合わせたケアのためのイノベーションが必要とされている。患者さんの思いやその人らしさを大切にしたチームでの関わりの実際を紹介していただいた。

### 【ディスカッション内容】

新しい治療法を導入し院内での体制を整えていく中、難しさを感じている看護師への教育などを含めた専門看護師のアプローチや、その人らしさを大切にした連携体制を構築するための仲間づくりについて議論した。弘末氏は病棟に出向き、ゲノムについての理解を得られるよう看護師にかかわり、「あきらめない精神」でかかわっていた。また、AYA世代のケアにおいては、看護師自身の葛藤があることなど、参加者からの発言もあり、患者のその人らしさを支える看護についても議論した。島田氏は、患者の変化をとらえ、その変化に合わせて看護師が一緒に動き出していく実践を行い、患者ひとりひとり

に合わせたケアを生み出していた。さらには、地域住民の「その人らしさ」を支援する仕組みづくりについても参加者より意見があり、領域を越えてのディスカッションを行うことができた。

#### ワークショップ4：

医療ニーズの高い療養児・者の在宅療養支援におけるイノベーション

#### 【コーディネーター】

大黒 美渚（高知市健康福祉部 47期生 修士17期生）

森下 幸子（高知県立大学看護学部 修士6期生）

#### 【企画の意図】

医療ニーズをもつ療養児・者の在宅療養の増加に伴い、法整備と支援体制の構築が図られている。在宅療養児・者と家族の安全・安心な療養を支援するために在宅看護の専門性の枠を超え、地域や多職種を巻き込むイノベーションに取り組む看護実践を理解し検討する。

#### 【話題提供者の紹介及び話題提供の内容の概要】

一般社団法人高知在宅ケア支援センター統括管理者、在宅看護専門看護師の安岡しずか氏より、医療ケア等が必要な子どもと家族のニーズを踏まえ、在宅レスパイト、保育所・学校訪問、相談支援など訪問看護制度の枠を超えて取り組む実践について話題提供をいただいた。続いて、公益社団法人兵庫県看護協会 神戸訪問看護ステーション管理者、在宅看護専門看護師の二宮園美氏より、医療ニーズの高い在宅療養者を24時間支援する課題や看護師の役割、介護職員等の喀痰吸引に関わる研修を通して在宅療養を支える人々のケアの質向上に取り組む連携と協働の実践について話題提供をいただいた。大黒美渚コーディネーターからは、「医療ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の概要と高知市の取り組みについて情報提供を行った。

#### 【ディスカッション内容】

参加人数は14名で、行政、在宅、医療機関、学生や教員など様々な職場や領域からご参加いただいた。松下博宜先生の「イノベーションは肩を抜いた雑談から、偶発的な創造を大事に」を引用し、ディスカッションは全員のご意見や質問を伺い共有した。訪問看護師の負担にどう対処するか、家族への支援はどうか、保健師に期待することは何か、制度の活用は拡大しているかなどの質問にコメントを頂いた。ご意見からは、医療機関と地域の連携が重要、日常の課題のなかにイノベーションの種がある、医療ケア児等の支援・介護職との連携など制度や役割など枠を超えた取り組みを理解し、今の業務に生かしたいといった声が聞かれた。社会の変化を捉え、制度を活用し、実践を深化させていく地域包括ケアシステムのなかの看護のイノベーションの実践と更なる可能性を共有することができた。

#### ワークショップ5：

将来を見据えた卒業生のキャリアデザイナー—自分イノベーション—

#### 【コーディネーター】

中井 美喜子（高知県立大学 修士14期生）

田之頭 恵里（高知県立大学 修士15期生）

#### 【企画の意図】

卒業生のみなさんからこれまでの歩みを振り返り、今考えていること、将来を見据えて描くキャリアデザインについてお話しいただき、看護職の多様なあり方について参加者の皆さんとともに考えたい。

#### 【話題提供者の紹介及び話題提供の内容の概要】

高知県健康政策部健康対策課 高橋咲季氏からは、地域社会や現場の課題解決に向けて地域の人々と取り組んでいることについて、松江市立皆美が丘女子高等学校 栗栖やすか氏からは、子どもの自由な発想に刺激を受けながら、子どもたちの健やかな成長と学びを支える養護教諭としての自己革新に取り組んでいること、高知県立大学看護学研究科博士前期課程 町田友里氏か